

申請書記載例を作成する際に使用する根拠資料例①

生産計画総括表

既存設備による生産実績				新規設備による生産見込み			
※1							
①	期首在庫数量	100	トン	①	期首在庫数量	100	トン
②	投入量	10,000	トン	②	投入量	12,000	トン ※2
	生産数量（合計）	10,100	トン		生産数量（合計）	12,100	トン
③	歩留り率			③	歩留り率		
	仕損品	505	トン		仕損品	121	トン
	正常品	9,595	トン		正常品	11,979	トン
		5.0%	95.0%			1.0%	99.0% ※3
④	期末在庫数量	100	トン	④	期末在庫数量	100	トン ※4
⑤	販売数量（合計）	9,495	トン	⑤	販売数量（合計）	11,879	トン ※4

※1 既存設備による生産実績については、直近実績を示す当社原価計算システムからのアウトプット資料『平成〇〇年度における■■表』（添付○参照）より入力。

※2 本設備投資により、生産能力が年間20%向上すると見込んでいる（添付○参照）。

※3 本設備を導入する生産工程における不良品の発生比率が格段に小さい実績があり、新規設備導入による不良品発生率は保守的に考えても1%程度と見込んでいる。
なお、設備投資後の投資計画期間において、当該歩留まり率はそのまま継続すると考えている。（添付○参照）

※4 過年度実績からすると、当社の生産能力の限界から逃しまわっていた注文状況からすると、正常品完成量の増加分は販売可能な数量と考えており、
期末保有在庫数量については過年度における実績数量を維持する計画である。（添付○参照）

備考：仕掛品、製品在庫は常に一定水準を維持する方針であるため、完成品数量と販売数量は一致する前提で作成している。